

# 研究通信

No. 51

1965・4 刊  
村落社会研究会  
事務局

甲府市武田四丁目  
山梨大学学芸学部  
社会学研究室内

## 村研拡大委員会報告

去る三月十二日（金）慶応義塾大学において拡大委員会を開きました。出席者は、有賀喜左衛門、小池基之、田野崎昭夫、米地実、大淵英雄、服部治則。議題は、「昭和四〇年度大会の件、年報「村落社会研究」第一号の件などであった。

### (A) 昭和四〇年度大会の件

本年度大会の件について、先ず事務局より通信第五〇号（一月発行）のアンケートの結果を報告した。大会の持ち方について（回答数一九）

- A 共通課題のみ 三
  - B 自由課題のみ なし
  - C 共通課題・自由課題両者 一四
- 回答なし 二

### 二 共通課題

- a 「村の解体」（但し条件付のものを含む）一六
- b その他 二

イ、「独占資本と村落」又は「社会開発と村落」

（神谷氏）

ロ、「都会地の農家」（大坪氏）

c 特に意見なし 一

右の結果で見られるように「むらの解体」が多かつたが会員数（二三〇）、会員全部に通信発送）に比して回答数が少ないので、全会員の意見が得られるよう、も一度通信を出して確かめ、その返答を待つて四月中に委員会を開き、決定することにした。

なお、アンケートの結果を、各会員の意見をそのまま通信に載せて、全会員の参考に供することとした。

(B) 年報「村落社会研究」第一号について

一、年報発行の時期

大会のかなり前に発行して（希望としては八月中旬）、これをもとに本年度の大会をもつ。従つて、大会以前に年報第一号掲載論文の批判をも含めて研究会を開きたい。そのために四月中に編集の仕事に着

手したいので、執筆者には三月一切を厳守して戴くよう、事務局から念のため願状を出すこと。

### 三、年報編集委員会事務局

編集委員会は本年度大会で決定するまで、暫定的に拡大委員会において執行し、編集事務局を慶応大学とするが、編集事務についての連絡先（原稿の送り先）は次の如くとする。

東京都港区芝三田二ノ二

慶応義塾大学第三研究室気付

村落社会研究会年報編集委員会

なお、編集委員会を開く場所は、慶応大学ではしばしば集合するに必ずしも便利とはいえないので、本郷付近で行うこと。場所のあつせんは中野卓氏に依頼すること。最後の一、二回は春木町中央会堂内図書房でできるより交渉すること。

### ①課題研究会について

先のアンケートに寄せられた住谷・矢木氏などの意見にもあつたように、大会の討議・論点などの共通化が重要であり、その為に予想される報告の内容についての研究会を開くことが必要である。例えば本年度も「村の解体」がテーマになれば、昨年の成

果をいかに吸収するか、又かりに別のテーマになつたとしても、それについて討論を重ねておくことが必要である。従つて、出来るだけしばしば研究会を開いて、報告者及び問題をもつ会員の報告をきいて問題を固めていきたい。この研究会は編集事務進行に並行して行なう。

### ① 大会の開催時期・場所について 一、時期

日本社会学会（十月九日（日）於東北大学）の前後とすること。なお、教育社会学会（十月二日（出）三日（日）又は十六日（出）十七日（日）於東京学芸大学）に出席する会員がかなりあるので、それをも併せ考え、十月五日（内）六日（内）又は十月十三日（内）十四日（内）がよいのではないか。（注 委員会以後の判明の情況では前者になる模様）

### 二、場所

山梨県内にもつこと。事務局において場所をあつせんのこと。

### ② 山岡・神谷氏の著書について

最近、会員山岡榮市氏、神谷力氏の著書が出版されたので、村研通信で紹介すること。

島崎稔氏又は田野崎昭夫氏に書評を依頼すること。

(以上三月十三日議事)